郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財　満願寺薬師三尊像

数多くの指定文化財がある東汗の満願寺ですが、平安時代の仏像が多数残されていることでも著名です。中でも、町指定文化財薬師三尊像の中尊である本尊薬師如来坐像は、非常に貴重な仏像の一つです。

薬師如来坐像は寄木造の彫眼で、全体を漆箔が貼られており、部分的に後の時代に補修された部材があるものの、他は当初からのものです。七仏の薬師如来像が刻まれた光背と、蓮弁などの部材が残る台座は、平安時代の特徴を色濃く残し、非常に貴重なものです。薬師如来坐像は、県指定文化財木造阿弥陀如来坐像と全く同じ作風であり、寸法もほとんど同じであることから、同一人物が作成したかと思うほどよく似ています。なお薬師如来坐像は厨子の中に納められ、秘仏であることから見ることはできません。

この薬師如来坐像が安置された厨子が載る須弥壇の両脇には、左右に日光菩薩像と、月光菩薩像が置かれています。この二つの像は、薬師如来坐像より新しく、鎌倉時代中頃に製作されたものであることから、薬師如来坐像は単独の仏像として作られ、後に、日光・月光菩薩が脇侍として作られ、さらに十二神将像が揃い、壮麗な仏像群でとなったことが想像されます。

満願寺の薬師如来坐像は古くから多くの人々から信仰を集め、伝説や民話が残されています。昔、鬼怒川のほとりに父と娘の貧しい家があり、父が川で漁をして暮らしていましたが、ある日、満願寺薬師堂の境内にある弁天沼に、一匹の大きな鯉が住んでいることを知った父は、人が止めるのを聞かずに捕まえて食べてしまいました。すると、その夜に苦しみだし、やがて目が全く見えなくなりました。娘は神仏の助けを得ようと、薬師如来の元に父の手を引いて37日の願をかけ、毎日お参りしました。そして、37日目の夜、娘が薬師如来の名号を唱えながら眠ってしまうと、一筋の光が家を照らし、「お前の信心と親孝行を讃え、父の目を元に戻す」との声が聞こえ、目を覚まし、薬師如来の元に駆けつけると、薬師如来は水を浴びたように汗をかき、娘を見つめており、家に戻ると父親はすっかり以前の姿にもどっていたとのことです。

鬼怒川の渡河点として重要だった東汗の地で、薬師三尊像は、平安時代より多くの人々を見守り続けたことでしょう。

満願寺薬師如来坐像

江戸時代	鎌倉時代					平安時代													西暦
1732	1277	1274	1250年頃	1249	1248	1159	1083	1063	1052	1051	11世紀中頃	1028	1027	1016			993	988	元号
享保12	建治3	文永11		建長元	宝治2	平治元	永保3	康平6	永承7	永承6		長元元	万寿4	長和5			正暦4	永延2	できごと
宇都宮藩主戸田忠余、満願寺を参詣する。	初代上三川城主横田頼業死去する。	文永の役。九州に蒙古襲来。	**この頃、満願寺日光・月光菩薩像が造られる。**	横田頼業、上三川城を築城する。	多功宗朝が多功城を築城する。	平治の乱が起きる。	後三年の役が始まる。（～1087）	宇都宮宗円、奥州平定の功によって、下野国守護職となる。	この年から末法の世になると信じられる。	前九年の役が始まる（～1062）。	**このころ、満願寺薬師如来坐像が造られる。**	平忠常の乱が起こる。	藤原道長、死去。	藤原道長、摂政になる。	このころ源氏物語が完成する。	このころ枕草子が完成する。	故菅原道真に太政大臣を贈る。	尾張国郡司・百姓等が、国守藤原元命の非法を訴える。	

巡回バス最寄りバス停
本郷線（ピンクのバス）
東汗公民館下車、徒歩１分
▼問い合わせ先＝
生涯学習課　生涯学習係
☎56９１５９